

第 1 回鳥取県国土強靱化推進評価会議での意見と対応方針

○…第 3 期計画で新たに追加検討中の KPI

No	意 見	対応方針	担当課
1	<p>【KPI 項目数・評価手法】 達成が困難な KPI まで評価する必要はないのではないか。 産業分野や住民が主体的に取り組む KPI の進捗に変化が見られないため、評価マネジメントが必要な項目に限定してはどうか。</p>	<p>以下のとおり KPI の見直しを行い、評価マネジメントが可能な KPI について進捗管理を行う。</p> <p>①2 期計画までに達成した KPI →完了した KPI として掲載する</p> <p>②数値目標は困難だが、実施内容を明確にしておくべき KPI (例：…体制の維持、…情報の提供、…訓練の実施 など) →取組が継続していることを評価する 今後の施策検討に重要なデータは実績を把握する (消防団員数、感震ブレーカーなど)</p> <p>③上記①②以外の KPI →これまでどおり数値目標による評価を行う</p>	技術企画課
2	<p>【農地荒廃】 農業従事者の高齢化や後継者不足による荒廃地の増加は、田畑が持つ治水機能の衰退に繋がるため、用水路の整備等に対する支援策を加えてはどうか。</p>	<p>農地が持つ洪水防止等の多面的機能の維持を支援等する、「田んぼダム」の取組を施策プログラムに追加し、取組状況を KPI で数値評価する。また、農業施設の中でも特に重要な頭首工の老朽化対策を支援する「保全対策」や「機能の再診断」の取組を施策プログラムに追加し、取組状況を KPI で数値評価する。</p> <p>○流域治水プロジェクトに位置付けられた田んぼダムにおける取組完了率 [368→750ha] ○保全対策に着手した頭首工などの基幹的農業水利施設数 [0→26 施設]</p>	農地・水保全課
3	<p>【支援物資】 災害時の緊急支援物資について、集積場で采配する専門家がおらず、物資が集まっても避難所まで配送できないことが課題になっている。</p>	<p>国・県・市町村・民間事業者等の中で、物資の調達・輸送等に係る情報共有や調整の効率化により、円滑な物資支援を実現するための新物資システム (B-PLo) の利用促進について施策プログラムに追加。 システム利用と併せて、物流専門家の派遣要請体制の確保に継続して取組む。</p> <p>○新物資システム (B-PLo) の操作訓練参加率 [0→100%]</p>	危機管理政策課

No	意見	対応方針	担当課
4	<p>【避難所環境】</p> <p>物質的な満足度だけでなく、心のケアマネジメントを含め、関連死を減らし、安心して避難生活を送れる環境整備が重要ではないか。</p>	<p>迅速な保健医療福祉支援活動のため、指揮調整の支援を行う DHEAT（災害時保健危機管理支援チーム）や、DPAT（災害派遣精神医療チーム）の体制確保に係る施策プログラムを追加。</p> <p>また、スフィア基準※を踏まえた避難所の生活環境の向上を図るよう施策プログラムを追加。</p> <p>※給水、衛生、避難所の居住環境の確保といった生命を守る権利を反映した最低限の条件が指標化</p> <p>○DHEAT の体制整備（チーム員確保、質の向上）[継続実施]</p> <p>○DPAT の体制整備（チーム員確保、質の向上）[継続実施]</p> <p>○スフィア基準を踏まえた避難所に必要となる災害用物資・資機材の備蓄 [取組推進]</p>	<p>危機管理政策課 福祉保健課</p>
5	<p>【看護師の減少】</p> <p>看護師が大きく減っているが、対策を検討すべき。</p>	<p>看護職員数は R4 に一時的に減少（10,123 人）したものの、R6 調査では増加（10,234 人）しており、引続き人材確保に向けた取組を継続する。</p>	<p>(R6 意見) 医療政策課</p>
6	<p>【内水対策】</p> <p>異常気象の激甚化に備え、今後の下水道計画では、敷設する管径に余裕をもたせることを検討してみてはどうか。</p>	<p>米子市では時間雨量の 1.1 倍で下水道計画を行うなど、気候変動を一定程度考慮した取組みが広がりつつあり、情報共有を図りながら検討を進める。</p>	<p>(R6 意見) 水環境保全課</p>